

平成22年度 がん対策情報センター 「患者・市民パネル」 活動に関するアンケート結果

■回答期間

平成23年3月18日から3月31日

■対象者

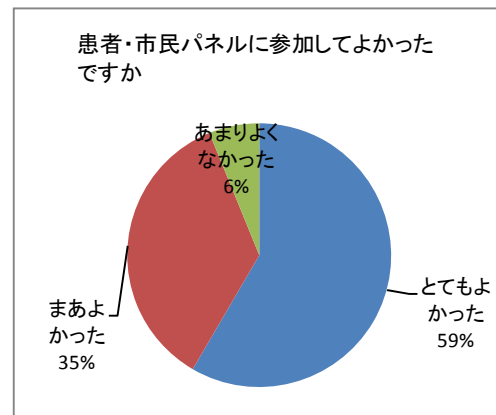
国立がん研究センター がん対策情報センター
患者・市民パネル 全100名

■回答者数

65/100名 (65.0%)

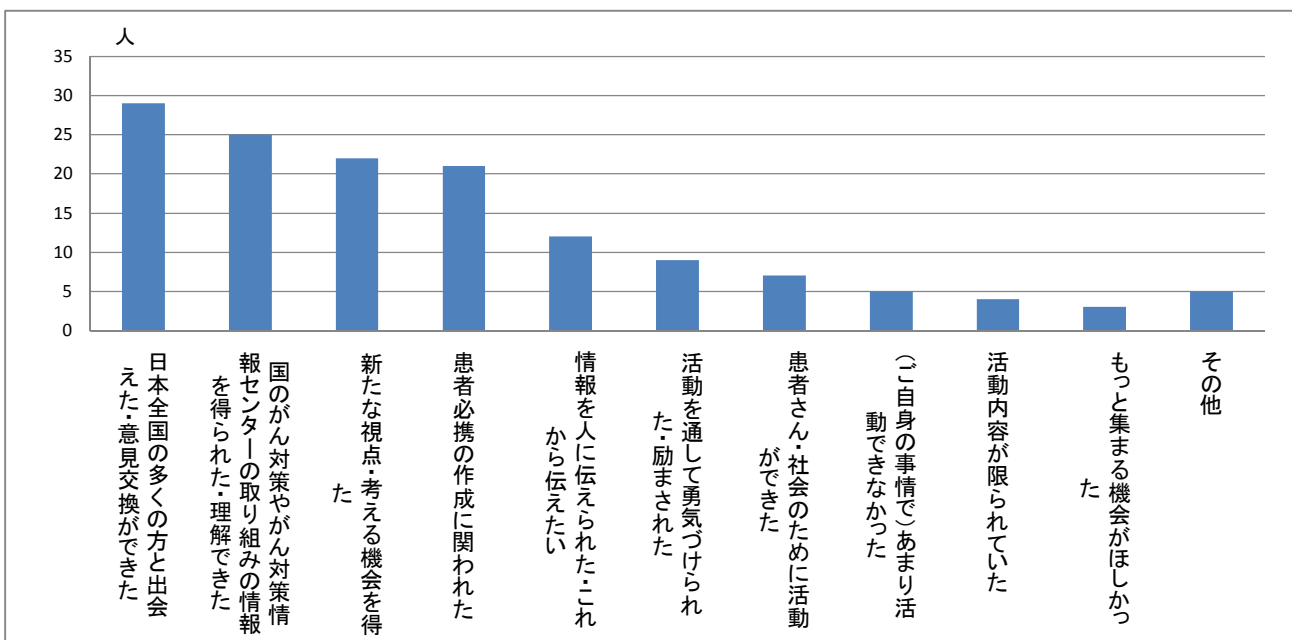
問1-1 患者・市民パネルに参加してよかったですか。

	(人)
とてもよかったです	38
まあよかったです	23
あまりよくなかったです	4
まったくよくなかったです	0
合計	65



問1-2 どのような点がよかったですか。または、よくなかったですか。その理由について、具体的にお書きください。

●自由記述で多かった意見



●自由記述(一部を抜粋して掲載)

【日本全国の多くの方と出会えた・意見交換ができた】

・多くの患者さんの生のご意見を聞く事ができる貴重な機会であった。

【国のがん対策やがん対策情報センターの取り組みの情報を得られた】

・国のがん対策が市民や患者の声を抜きにしていないこと、市民にわかりやすい情報を発信しようと取り組まれていることが理解できた。

【新たな視点・考える機会を得た】

・いろいろながんの患者さんや、あるいは患者さんだけでなく支えてこられたご家族とお会いし、お話をさせていただくことで、色々な視点からものごとを考えることができるように思います。それにより、新たな問題点や解決策を考えるきっかけになるものだと感じることができました。

【患者必携の作成に関わられた】

・「患者必携」や「しおり」作成に関わられたことは、市民の立場からうれしく思います。一方的でなく、双方向の活動ができたと思っています。

【がん情報について人に伝えられた・これから伝えたい】

・情報は生きる力になる事を、まわりのがん患者さんに伝えていきますし、これからはがん情報センターの情報を伝えていきたいとおもいます。

【勇気づけられた・励まされた】

・患者の家族として、参加させていただきました。多くの方が闘病しながら活動されていることを知り、また、親身に患者や家族のことを考えてくださる専門職が多いことも分かり、救われた思いもしています。
さらに、非常に専門的な内容の情報も、分かりやすく伝えていこうと考えている、とりくみ、この患者・市民パネルの存在そのものに励まされました。

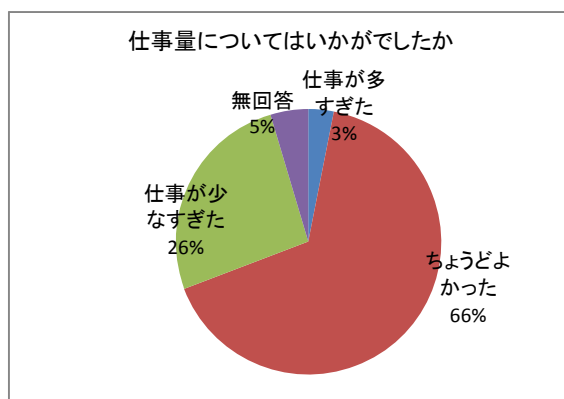
【患者さん・社会のために活動ができた】

・少しでもがん医療の役に立てるかもという気持ちで、自分自身のがん医療に向き合う気持ちを前向きにすることができた。

問2 この一年間の患者・市民パネルの活動はいかがでしたか。

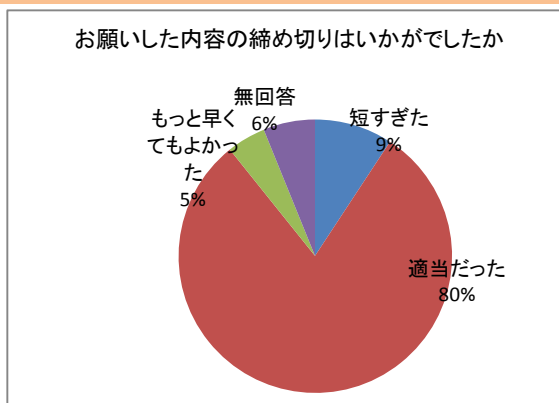
(1) 仕事量についてはいかがでしたか。

	(人)
仕事が多すぎた	2
ちょうどよかった	43
仕事が少なすぎた	17
無回答	3
合計	65



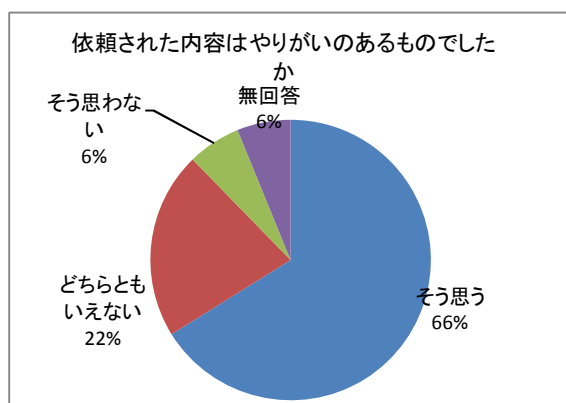
(2) お願いした内容の締め切りはいかがでしたか。

	(人)
短すぎた	6
適当だった	52
もっと早くてもよかった	3
無回答	4
合計	65



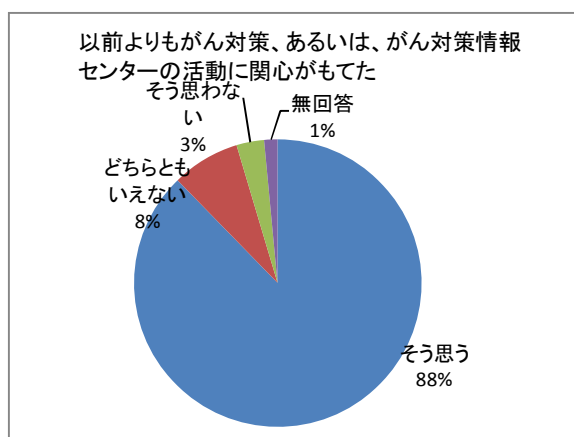
(3) 依頼された内容はやりがいのあるものでしたか。

	(人)
そう思う	43
どちらともいえない	14
そう思わない	4
無回答	4
合計	65



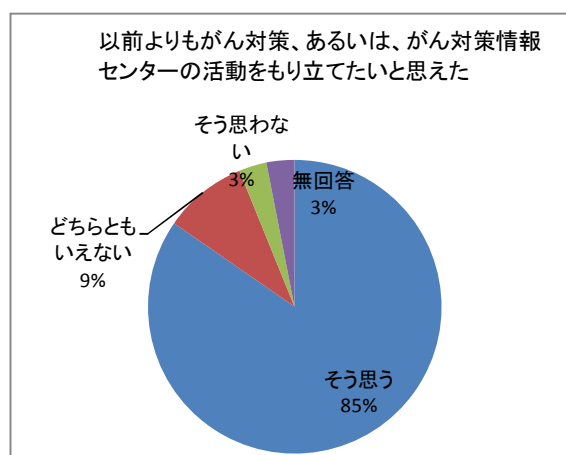
(4) 以前よりもがん対策、あるいは、がん対策情報センターの活動に関心をもてた。

	(人)
そう思う	57
どちらともいえない	5
そう思わない	2
無回答	1
合計	65



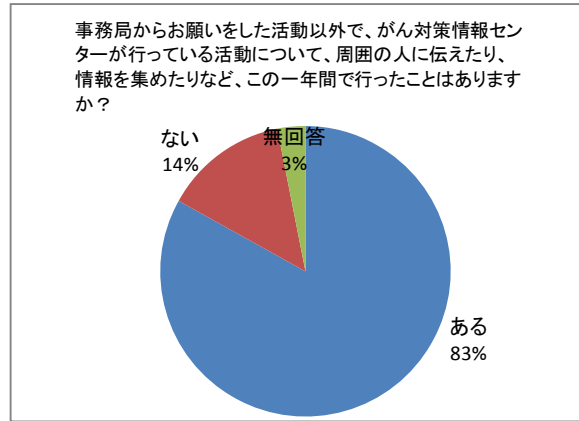
(5) 以前よりもがん対策、あるいは、がん対策情報センターの活動をもり立てたいと思えた。

	(人)
そう思う	55
どちらともいえない	6
そう思わない	2
無回答	2
合計	65



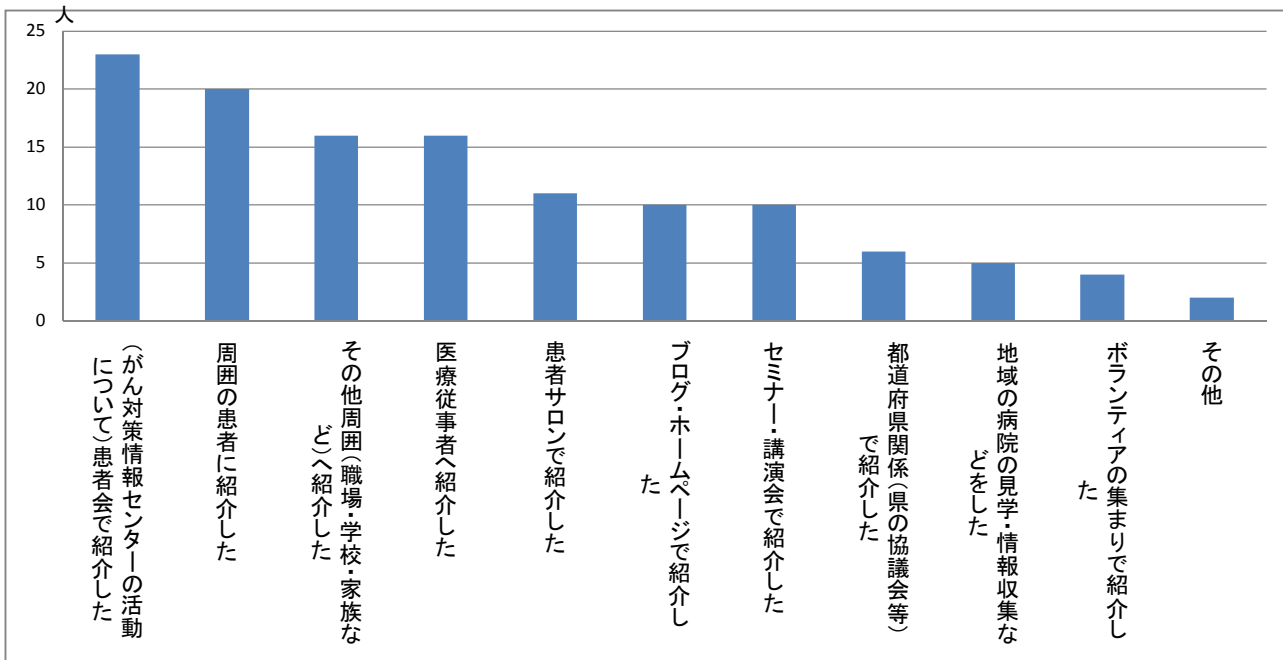
問3 事務局からお願いをした活動(原稿チェックや検討会への参加)以外で、がん対策情報センターが行っている活動について、周囲の人に伝えたり、情報を集めたりなど、この一年間でやったことはありますか？

	(人)
ある	54
ない	9
無回答	2
合計	65



問3-2 具体的にお書きください。

●自由記述で多かった意見



●自由記述(一部を抜粋して掲載)

- ・同じ入院患者に「がん患者必携」を紹介できた。
- ・若い世代への情報や意識の啓発に務めた。
- ・地域の保健師さんに患者必携のことを伝えた。
- ・病院内の「患者の会」に招かれ、先輩患者として体験発表をした。